一、自然於城中喧嘩等仕出刻、番切可致裁許。但、様子により隣之番人者可出合、組頭罷出落着可申付事。

丑七月十九日（寛文元年）　御印

城中番人中

三　石川・河北兩御門往來御定

石川・河北兩門

一、寄合八人・前田三左衛門・前田丹後、供之若黨五人・はさみ箱二・草履取二人可相通。不依誰々、乘物・長道具通申間敷事。

一、人持并組頭供之若黨三人・はさみ箱一つ・草履取二人可相通事。

一、物頭小々姓并用懸之者は、若黨二人・挾箱一つ・草履取一人、雨降候刻者、外からかさ持一人可相通事。

一、右之外者誰々によらず、若黨一人・はさみ箱一つ・草履取一人可相通事。

一、人數定之外、夜中は挑灯持一人可相通事。

一、城中番人者、長道具・供之者下々幾人に而茂可相通。

但、在國之内二之丸に相詰候番人は、人數定之通召連可申事。

一、同番人寢道具、役人・諸職人札を以可相通。其外諸道具は奉行人切手を以可出事。

一、城に用所無之もの、兩門往還いたさす間敷事。

一、坊主頭之外、掃除坊主・足輕・町人・又家中之もの、雨降候共、兩門より内に木履はき通申間敷候。但、知行取候ものは不苦事。

右之通相違有間敷者也。

寛文三年二月廿五日　御印

四　三之御丸・橋爪御門往來御定

三之丸・橋爪之門

一、寄合八人・前田三左衛門・前田丹後、供之若黨二人・挾箱一つ・草履取一人、雨降候刻者、外からかさ持一人可相通。

但、用番之者、挾箱二可相通事。

一、小々姓并用懸之者は、若黨一人・挾箱一つ・草履取一人、雨降候刻はからかさ持一人可相通事。

一、右之外は誰々によらず、若黨一人・草履取一人可相通事。

一、人數定之外者、夜中は挑灯持一人可相通事。

一、城中番人は、長道具・供之者下々幾人に而も可相通。

但、在國之内二之丸に相詰候番人は、人數定之通召連可申事。

右之通相違有間鋪者也。

寛文三年二月廿五日　御印

五　城内所々御番所御定

覺

一、於御城中、若喧嘩口論其外急切之儀有之刻者、二之御丸當番之頭中并御横目迄、即刻斷可被申候。尤定番頭・同御番頭・拙者方へ茂早速可被申聞候。勿論其頭・支配へも早々可被相達候。但、其節右面々之外拙者共差圖無之者、猥に河北・石川兩御門相通不申候様、御番之與力中へも可被申渡候。自然拙者共故障有之刻は、月番より差圖可有之候條、右之趣に可被相心得事。

一、於御番所急病人有之刻、不依晝夜、是又二之御丸當番頭中へ被相達、頭中指圖次第御門之内に乘物を入、御番所より乘物に而可被相返事。

右書面之趣被得其意、河北・石川兩御門御番之與力中へも可被申渡候。以上。

辛酉九月四日（寛保元年）

本多安房守
横山大和守

三之御丸御番人衆中

覺

一、於御城中、若喧嘩口論其外急切之儀有之刻者、二之御丸當番之頭中并御横目迄、即刻斷可被申候。尤定番頭・同御番頭・拙者共方へも、早速可被申聞候。勿論其頭支配に茂早々可被申達候。但、其節右面々之外拙者共指圖無之者、猥に御門相通被申間敷候。自然拙者共故障有之刻者、月番より指圖可有之候條、右之趣に可被相心得事。

一、於御番所急病人有之砌、不依晝夜、是又二之御丸當番之頭中へ被相達、頭中指圖次第御門之内に乘物を入、御番所より乘物に而可被相返事。